

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	松本 秀章
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	学長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
自然と環境	国文・子ども	1

②担任制度

担任（1 年生）		担任（2 年生）	
----------	--	----------	--

③委員会活動

運営協議会	委員長	SD 委員会	
研究倫理委員会	委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員長	入学者選抜委員会	委員長
自己点検・評価委員会	委員長	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員長
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員長
不正調査委員会		衛生委員会	委員

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 【子ども学科】
個人の教育理念・目標	本学の使命（教育者の養成（理念）、人間形成（建学の精神）、地域に貢献できる人材養成（学則）等）を達成することを念頭に教育研究活動に精励することを目指している。本学は広義で教育者を養成する高等教育機関であり、我々は教育者を養成する教育者である。学生に教えるということは、自らが試されていることであると捉え、教育内容の向上及び教育者としての資質を日々研鑽するよう努めている。 また、本学の使命に加えて、教育による専門職業人及び地域コミュニティを支える職業人・社会人の養成という地方の私立短期大学としての使命を鑑み、学生が地域での実体験を通して学修成果を獲得できるよう努めると共に、学長として本学が永続的に教育研究活動を行い、地域の人材輩出を担う使命を達成できるよう、大学運営や地域連携の活動を重視している。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	学科が当該科目に指定する目標（DP）を達成させることはもちろんであるが、教育者・社会人としての資質を向上させるような知識・技能を積極的に取り入れるように努めている。また、本学が目指す人材像を鑑み、人間的な関わりを大切にしている。学生にとって学長という肩書が障壁とならぬよう、言語的なコミュニケーションに限らず、非言語的コミュニケーション（柔らかい話し方、節度をもったカジュアルな服装、笑顔を意識した表情等）を意識しながら、一教員として双方向の授業が実現できるよう工夫に努めている。
授業以外（学生支援等）	学生との交流の中で目標を達成できるよう努めている。そのために、まずは意図的に学生と関わろうとする意識、次に具体的な行動が肝要であると考えている。授業が少なく、学生と関わる機会が少ないため、対面の交流に加えて、ICTも積極的に活用している。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	教育者・社会人としての資質となる汎用的な力を養成するため、グループワークやフィールドワーク等を導入し、学生の指導・支援に努めた。ルーブリックを用いた成績評価において全員が単位認定されたことから、一定の成果があったと評価する。 また、アクティブラーニングを通じて学生と積極的に関わることができた。授業を契機にキャンパインストラクター資格の取得や、ボランティア参加に多数の希望者が出たことから、一定の授業への関心や理解が見られたと評価する。
授業以外（学生支援等）	サークル、ボランティア、公開講座といった課外活動に主体的に取り組み、学生の参加を得て、盛況に終わることができた。

5. 目標（今後どうするか）

授業	授業改善に努めながら、原点である学修者本位の教育（授業）に立ち戻り、再度、学生の主体的な学びや適切な成績評価等が行えるような教育を行う。 フィールドワークに特化しすぎるのではなく、座学においてのアクティブラーニングの充実に取り組む。
授業以外（学生支援等）	担当授業の学修成果や学科のDP獲得に資するような、課外活動に取り組む。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教職員としての資質	学科長や事務局長との情報共有しながら、各部署での啓発に努めるよう指示した。自身においては、教授会等で啓発すると共に、常に言動に注意を払い、代表たる学長としての振る
-----------	--

	舞いに努めた。
全学体制の募集	各所での本学の PR や営業に努め、結果として新規の教育連携の機会を得る等、PR 以外の部分でも成果があった。また、募集停止まで、SNS の発信に努め続けた。

7. 記載内容に関する根拠資料

- | | | | |
|---------------|----------|-----------|----|
| ①令和 6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | シラバス | |
| ②令和 6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | 科目別成績分布状況 | |
| ③令和 6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | 担任一覧表 | |
| ④令和 6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | 委員会構成名簿 | |
| ⑤令和 6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | 組織図 | 以上 |

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	神谷昌史
学科	国文学科
学科以外の兼務職	学長補佐

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
日本史概論	国文	1
キャリアデザイン	国文	1
インターンシップ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
インターンシップ	国文	2
日本国憲法	国文	2
シティズンシップ論	国文・子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	副委員長	SD 委員会	
研究倫理委員会	副委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	副委員長	入学者選抜委員会	副委員長
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員長	紀要編集委員会	委員
学生調査委員会	委員	教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会	委員長	学長推薦選考委員会	
不正調査委員会	副委員長	衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員	担当	WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有	無
--------	---	---

助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費補助金
研究種目	基盤研究 (C)
期間	2021～2024 年度
助成金額 (期間中合計)	4,160,000 円
研究課題	日中戦争期華北の未公開資料の調査・公開と総合的研究
備考 (分担者等)	研究分担者

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援とを実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	学科長としての理念・目標は、第一に、学科の教育目的・目標を達成するため、学科の運営に務めることである。第二に、そのために事務局と連絡や協力を密にすることである。特に学生支援については、学務課教務係、学務課学生支援担当キャリアデザイン係・学生係と連携して行っていく。第三に、国文学科をまとめていくことである。この点については昨年度を顧みて大変不十分であるとの反省をしており、またその困難さを認識しているが、学科をまとめることが責務であり、可能な限り実現できるよう努力していく。 一教員としての理念・目標は、第一に、一教員の立場からも学生支援に力を入れることである。学生のなかには就学さらには卒業後の自立に困難と不安を抱える者が多くいる。そうした学生も安心して大学で学び、一定の学習成果を獲得して卒業でき、卒業後は社会のなかで自立していける、そのようなサポートを心掛けたい。第二は、授業の改善を図り、少しでもよい授業を行うことである。 なお、今年度は学長補佐の職を命じられた。できることは限られているが、学長の仕事のサポートをできる限り行って、少しでも本学に資することが目標である。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	①授業内容の研究と改善 自らの専門に近い「シティズンシップ論」については、昨年度の授業および内容が近い「くらしと政治」の講義内容をブラッシュアップすることを中心に改善に取り組んだ。特に近年のデモクラシー論や自由主義論に関する文献を精読することにより、シティズンシップに関する知見を深め、学生にわかりやすく説明できるよう努めた。また「ゼミⅠ・Ⅱ」は自らの専門と必ずしも近い内容ではないため、できるだけ多くのマンガ研究を渉猟することにより、学生にマンガ研究の基礎を示すことができるよう努力した。 ②教授方法の研究と工夫 「シティズンシップ論」では一方的な講義にならないよう、作文とディスカッションを取り入れて学生が主体的に参加する授業となるようにした。作文については型作文といわれる形式の決まった作文技法を取り入れ、誰でも一定の作文が書けるように工夫した。またその作文を踏まえ、自らの考えを述べるディスカッションを数回行うことにより、自らの考えをまとめたうえで他者に伝えることに取り組めるようにした。
授業以外 (学生支援等)	①学生支援 学科をとりまとめ、学務課教務係、学務課学生支援担当とも連携を深めて、学生の支援を丁寧に行えるようにした。

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	①授業内容の研究と改善 「シティズンシップ論」は国文・子ども両学科共通科目であるが、両学科の専門とはかけ離れた授業内容である。そのため多くの学生にとってはもともと興味関心のある内容ではない。しかし様々な工夫により一定の関心と理解を得ることができた。また「ゼミⅠ・Ⅱ」は参加学生はマンガという対象については関心をもっているものの、それをどのように「研究」するのかかわからないという中スタートしているが、1年間の授業を通して研究を深めていき、最終的には全員が卒業研究の成果物を作成することができた。 ②教授方法の研究と工夫 「シティズンシップ論」における型作文は参加学生がみな一定の形式を守って文章を書く
----	--

	ことができるようになった。またディスカッションにおいてもほとんどの学生が問題なく参加でき、所期の目的を果たすことができた。
授業以外 （学生支援等）	①学生支援 学務課教務係、学務課学生支援担当、学科教員との連携は、担当職員の積極的働きかけもあって十全に行うことができた。その結果、悩みや課題を抱えている学生へのサポート、出席や課題提出等に問題がある学生への対応等、不足なく行うことができた。また昨年課題であった就職支援についてもある程度行うことができたと考えている。

5. 目標（今後どうするか）

授業	次年度は担当授業数が減るため、一つ一つの授業をより丁寧に行うことを目標とする。引き続き担当する「シティズンシップ論」については、授業内容や方法の大きな変更は行わないが、提出された作文に対し丁寧なコメントを返すことを心がける。
授業以外 （学生支援等）	次年度は学生の担任を持たないため、学生の状況把握が困難になる恐れがある。学生の状況を的確に把握し、支援を進めるために、学科教員、学務課教務係、学務課学生支援担当等との連携をさらに緊密にする。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教職員としての自覚	今年度は国文学科長に加え、学長補佐の職を拝命した。その立場から、本学方針や3つのポリシーなどを常に意識し、行動することを心かけた。法令やガバナンスコードはもちろん、様々なルールを遵守して行動した。
学生支援	教員個人の立場だけでなく、国文学科長・学長補佐として、組織として学生を支援することに常に努力した。全学体制の学生支援に注力し、国文学科としては退学者を出さずに今年度を終えることができた。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月 1日
氏名	池田 大輔
国文学科	教授
学科以外の兼務職	湖国カルチャーセンター長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
古典文学講読Ⅰ	国文	1
古典文学講読Ⅱ	国文	1
文章表現	国文	1
基礎ゼミ	国文	1
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
ボランティア	国文	2

②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	委員
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	副委員長
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員長
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	担当

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ (無)
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援とを実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	本学科のアドミッション・ポリシーに基づき入学してきた学生に対し、カリキュラム・ポリシーに従って、ディプロマ・ポリシーの達成実現へ向けた教育活動を行っていく。特に日本古典文学の授業を中心に担当しているので、学生には時代を超えて普遍的な価値を持つ言語表現について自覚させ、日本人のアイデンティティや人間の根本的な課題を探究する方法や機会を提示し、自己価値・判断力・言語化能力の涵養を目指す。その際に、発問や対話を重要視し、己の知識をもとに主体的思考を形成できるような授業展開を心がけていく。 また、学生には日常的に自己の考え文章化することを課し、教員が添削、見直しすることで、誰もが納得できる言語化能力を習得できるよう指導していく。国文学科で学んだ社会人として、恥ずかしくない素養と言語力を発揮できるよう学生を導くことを心掛ける。 少人数教育という特長を活かし、学生には日常的に挨拶や声がけを心がけ、学生との信頼関係を構築するとともに、体調や感情の変化に気が付けるように努める。昨年度より設けられた「スチューデントアワー」には、積極的に学生と関わりを持つようにすることで、学生が日常的に、何か相談事があったときに話しやすい関係の土台を築くよう努める。 ＊本学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、本学ホームページを参照してください。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	1.「日本古典文学講読Ⅰ」における ICT 活用（国文学科 1 年） 授業は NHK 大河ドラマ「光る君へ」が紫式部を主人公ということで、『源氏物語』を取り上げた講義を行った。Google Classroom をプラットフォームとして、「講義資料」（欠席者用）、「講義動画」（事後確認用）、「課題（リアクションペーパー）」を毎回、授業内容として公開した。「リアクションペーパー」の中での意見は、次の授業冒頭で振り返りを兼ねて共有した。 2.「基礎力プログラムⅢ・Ⅳ」における PBL 型授業（国文学科 2 年） 通年科目で「地域伝承をもとにした地域活性化」を目標に、地域・行政と連携した地域課題解決型の活動を展開した。春学期に地域へフィールドワークを実施し、ヒアリングや実地調査、秋学期に調査内容をまとめ 10 分程度の動画を作成し、地域の方々を聴衆に視聴・意見交換会を実施した。活動に当たっては、1 グループ 4 人前後だったため、一人ひとりに主担当（フィールドワーク行程、写真撮影、文章作成、BGM など）を決めて活動することで、グループ内での役割と責任感を培うようにした。
授業以外 （学生支援等）	1.担任面談 1 年生 4 名、2 年生 4 名を担当。前期・後期の最初と最後に実施する担任面談では、1 年生は大学生活への慣れ、定期試験への準備と感想など大学生活における不安要素の確認を中心に行った。2 年生は、就職活動の進捗状況を中心に、相談やアドバイス等の支援を行った。 2.スチューデントアワー 主に、体育館でバドミントンや卓球で国文学科だけではなく子ども学科の学生とも交流を深めた。秋学期は研究日と重なったため、春学期ほど学生と交流を持つ時間がなかった。

	＊誰でもいつでも、声を掛けられる雰囲気作りとして、在室中は研究室の扉を全開している。
--	--

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	1.「日本古典文学講読Ⅰ」における ICT 活用（国文学科 1 年） 授業アンケート結果からは、「ことばの豊かさを知り、日本人としての自覚を持てるようになる」という到達目標に対して、受講者の 9 割が達成できたと回答を得た。 学生アンケートでは「説明がわかりやすく、授業の雰囲気も明るくておもしろかった。 原文の文法的な説明がもう少ししていただければより理解が深まる」など高評価であった。 2.「基礎力プログラムⅢ・Ⅳ」における PBL 型授業（国文学科 2 年） 授業アンケート結果からは、「探求の成果を、視覚資料として他者に伝えることができる」という到達目標に対して、受講者の 9 割が達成できたと回答を得た。動画という成果物を作り上げる目標と各自の役割を明確にしたことで、協働力やコミュニケーション力の向上がみられた。また、地域での学びと交流があったため地域愛の向上にも繋がった。地域の魅力を外部の人が知り、地域へ足を運ぶことで活性化へ繋がる動画の一般公開を予定していたが、声や顔を収録した学生が公開を望まない者もいたので、そういった点も最初から注意して作成するよう指導していく必要があったが、学生の学習効果はとても高いと評価できる。
授業以外 （学生支援等）	1.担任面談 遠方より通学する学生もいるが、1 年生は失単位する者もおらず無事に 1 年を終えることができた。 2 年生は、無事全員が就職内定となった。 2.チューデントアワー 日常的に声掛けできる、される状況を作ることができた。

5. 目標（今後どうするか）

授業	授業アンケートなどから、好評かを得ているので、引き続き「リアクションペーパー」や分かりやすい授業、評価のブラッシュアップを行って柔軟に対応実施していく。グループワークの需要に関しては、全員がコミュニケーションを取り合い、協働力を高められるよう目を配り、ファシリテートしていくよう心掛ける。
授業以外 （学生支援等）	担任面談では、引き続き学生の学生生活、就職の支援を行っていく。また、日ごろから学生の様子に目を配り、心地よい学生生活を送れるようサポートしていく。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した 2 項目）

教育活動	学生は、将来国語教員や研究者を目指しているわけではないので、国文学科の教育目的である「社会で自立できる」ことを意識して日々の教育活動にあたった。特にグループ活動では、自分の考えを伝え、相手の意見も受け止め理解するコミュニケーション力と協働力が向上できるよう努めた。知識や教養も必要であるが、社会人となった際には、必ず他者との意思疎通が重要となってくる。 また、成績評価も明確にし、日々のリアクションペーパーを活用して言語能力向上の指導にあたった。ゼミにおいては、源氏物語ミュージアム（宇治市）、公用車を活用して石山寺（大津市）、紫式部公園（越前市）へ引率し、フィールドワークも重視した。
広報活動	NHK 大河ドラマが紫式部を主人公で、研究の専門が平安文学ということもあり、大河ドラマを活用しながら、資料には毎回大学ロゴマークと大学の紹介をするなど、本学国文学科の広報活動に努めた。学内カルチャーにおいては、全 8 回実施し、参加者も 40 名と例年よりも多く、最終アンケートも高評価であった。また、学外講演会も滋賀県、福井県を中心に 16 回（大津市、守山市、近江八幡市、小浜市、美浜町、越前市）実施した。次年度もお願いしたいと複数の機関からの依頼があり、参加者、担当者からの評価は悪くはなかったと思われる。また、NHK（大津放送局）による学生と源氏物語の取材と放送もあった。広報活動は、受験者増には繋がらなかったかもしれないが、大学認知には寄与できたと考える。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	井上 勝
国文学科	准教授
学科以外の兼務職	図書館長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
情報資源組織論	国文	1
情報資源組織演習Ⅰ	国文	1
情報資源組織演習Ⅱ	国文	2
情報サービス論	国文	1
情報サービス演習Ⅰ	国文	2
情報サービス演習Ⅱ	国文	2
図書館サービス概論	国文	1
インターンシップ	国文	2
ボランティア	国文	2
学校図書館メディアの構成	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD 委員会	委員
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	委員
図書委員会	委員長	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	委員長
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	委員

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援を実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	基本的な姿勢として、本学の教育理念、建学の精神に基づき、個々の学生が社会人として、また、職業人として、調和のとれた人間形成を行っていくための支援を確実に行っていく。 滋賀県内で唯一の司書養成課程を持つ本学への社会的要請に応えるべく、県内及び周辺地域の図書館と情報を密に、連携を進めるとともに、現場で求められる司書となるべく、実務的な能力を身につけるとともに、困難に直面したとき、適切な判断ができるよう、よって立つべき基本的な考え方、理論も伝えていく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	司書養成のための司書資格に関する授業において、基本的な理論を伝えていくに際して、30年余の実務経験を踏まえ、現場ではそれらをどう展開し、活かしていくのかを説明し、自身が実際に図書館現場に立った時、どのような司書でありたいか、どのような図書館としていきたいかということを年間に2～3回考えて文章化させた。また、公立図書館を見学することや、展覧会やコンサートなどの文化事業に参加することを勧め、基本データをまとめることやその感想を文章化することを行った。 私自身が滋賀県・福井県・岐阜県などの図書館をできるだけ実際に訪れ、施設や実際に行われている図書館サービスを確認し、インターンシップや図書館見学の受け入れが可能か等について調査を行い、それらの情報を授業等において学生に還元した。
授業以外（学生支援等）	学校生活になじめない学生、慣れない1人暮らしや、授業を受けることに困難を感じている学生から具体的に困っている事を聞き取り、問題点をときほぐしながら、学生に寄り添い、その困難を一つ一つ解決すべく話し合った。 就職活動について、図書館司書の採用を中心とした情報を提供するとともに、地方公共団体の受験、図書館司書の採用試験等に際して、書類の書き方、面接時の答え方等を模擬的な形で行う等実践的な対応を行い、受験時の不安感をやわらげるようにアドバイスを行った。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	学生の授業理解、図書館サービスの実際像の構築において、理論のことばだけでは、入っていきにくい知識を具体的なことがらとして整理し、実感として受け入れることにより、徐々に、具体的なイメージを伴う図書館司書像を描けるようになっていった。 学生自身の中での司書像を、より上手に文章化できるようになっていった。 結果的には、滋賀県内の図書館4館で10人、福井県内の図書館1館で1人ではあるが、図書館でのインターンシップを実施することができ、地域の図書館をより身近に感じ、図書館で働くイメージをより具体的に持つことができるようになっていった。
授業以外（学生支援等）	すべての授業において、すべての学生が溶け込むことは残念ながらできなかったが、出席不足による単位未取得という事態は避けることができた。また、学校生活に馴染めないことによる不登校、退学ということはなかった。 就職活動においては、昨年度に引き続き、現役生に、図書館司書の専門職採用される学生があった。また、正職員採用には至らなかったが、正規職員を目指し、図書館現場で、会計年度任用職員として、採用された学生もいた。

5. 目標（今後どうするか）

授業	今年度から、1年生、2年生双方の授業を担当することとなった。持ち上がりの2年生の授業では、1年生で積み上げてきた図書館および、司書についての知識をより深め、また、実践的なものとするべく、演習的な要素を増やし、ディスカッションや発表というアクティブな学びの要素を加え、また、今年度同様、現場での対応力をつけるための図書館現場の情報を授業で活かせるように、現物の提示や映像によるイメージ化等、より工夫を凝らしていく。 また、新1年生についても、今年の授業を踏まえ、引き続き、現場のリアルな情報に基づいた知識の伝達につとめ、自身で考えること、話し合い等により考えを深めること、そのうえで図書館現場での実際のサービスとの比較をすることというより、プラグマティックな疑似体験的な要素を加味していきたい。 私自身が、学生の出身地及び、その周辺の図書館を、昨年度及び今年度同様に、引き続き訪問し、学生と実際の図書館の施設、サービスについて語り合えるようにしていきたい。また、インターンやボランティア等の関係を築ける図書館を増やし、その情報を学生に提供し、実績を積み重ねていきたい。
授業以外 （学生支援等）	今年同様、学生に寄り添い、学生生活に支障が出ないようにサポートしていくと共に、私自身も支援する力のスキルアップのために研修受講等の自己研さんに努めていきたい。 具体的には、学生が、社会にでていくためのサポート、就職支援につとめたい。公務員採用、図書館司書の採用に関する情報収集につとめ、今年同様、書類作成のアドバイス、模擬面接を行う等今までの私自身のキャリアを活かした就職サポートに努めていきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教育活動	図書館司書を目指す学生には、単に図書館司書の資格認定のために、国の規定マニュアルをこなす授業にとどまらず、図書館現場に出て、実際に業務を行ったときを想定し、自分で考え、行動できる判断の基礎となる力をつけてもらうことを目指した。2年生の授業においては、ほぼ想定していた授業を行うことができた。また、学生の方から自主的に正規の授業以外に学ぶ場を求められ、秋学期に補修授業という形で、分類演習及び基本図書に関する講義を行い、想定以上の出席を得、実践力を高めてもらうことができた。 ただ、1年生については、昨年度の反省に基づき、より体系的な形で実践演習を行ったが、理解度をきめ細かく確認することをおこなったため、上滑りとなった面もあった。新2年生となる来年度はその点を踏まえ、フォローをしていくとともに、新1年生については、理解度の確認をよりまめにおこなっていききたい。
就職活動支援	就職を前提とした、図書館の現場体験のプログラムの内、昨年度実施できなかった、1年生を対象とした、夏季休暇時の図書館ボランティアを今年は開催することができ、2年生からの参加もみられた。また、1年生春学期の図書館インターンシップについては、実施館、参加者とも昨年度を大きく上回り、初の実施となる図書館も開拓できた。 実際の就職については、昨年度、本人の熱意に合わせる形で、きめ細かな試験対策指導を行い、幸いにも現役で京都府内の市立図書館に司書の専門職としての合格者が出たが、本年度も県内の市立図書館に現役で、2人の司書専門職の合格者を出すことができた。また、将来の正職を目指す形で、会計年度任用職員として、図書館司書の道を歩み始める学生も出てきた。 本学が、再来年度末をもって閉校することとなったため、就職活動を行う学生としては、あと2年ではあるが、図書館司書養成課程を持つ滋賀県唯一の高等教育機関として最後まで、その職を目指す学生をより、力強くサポートしていきたい。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	有山 裕美子
国文学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
学習指導と学校図書館	子ども	2
学校経営と学校図書館	子ども	2
情報メディアの活用	子ども	2
読書と豊かな人間性	子ども	2
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	1
図書館情報技術論	国文	1
図書館情報資源論	国文	1

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	副委員長
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	委員長
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	担当
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有	無
--------	---	---

助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (B)
期間	令和 5 年 4 月～令和 9 年 3 月
助成金額 (期間中合計)	14,430 千円
研究課題	学校教育とデジタルアーカイブを結ぶ学習内容 LOD を用いた架け橋モデルの設計
備考 (分担者等)	分担者

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (B)
期間	平成 6 年 4 月～令和 10 年 3 月
助成金額 (期間中合計)	18,460 千円
研究課題	校長含む教職員の著作権知識や経験値等の実態分析に基づく個別最適な著作権研修の構築
備考 (分担者等)	分担者

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援を実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	本学の教育理念及び、建学の精神に基づき、「教育者を育てる教育者」として日々学び、自己研鑽につとめるとともに、学生ひとり一人の課題や学びに寄りそう、きめ細やかな指導をおこないます。 また、学生の理解が深まるような授業の工夫、改善につとめ、社会に出た時に役に立つような実践的なカリキュラムの実践を目指す中で、授業内容を工夫し、魅力ある授業を実践し、それらの成果を外部に向けて発信していくよう努力していきます。学内での情報発信はもちろん、オープンキャンパスや SNS、あるいは学外での研究発表や論文投稿等でも本学の実践の様子等を積極的に発信していきます。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	昨年度と同様、「教育者を育てる教育者」としての理念に立ち、講義内でも、より実践に即した内容を取りあげるように努めました。また、自分自身の教員や司書としての経験はもちろん、さまざまな具体例を取り上げ、学生が社会に出た時に役に立つような、演習等を取り入れ、主体的に授業に参加できるように促しました。 具体的な方法としてはあ、学生一人一人の課題に対する習熟度を測るために、講義毎のアクションペーパーの作成や、講義途中の中間レポートを課し、随時フィードバックや授業内発表を取り入れ、理解度や講義への主体性を見るようにしました。より協同的な学びへと向かえるように、グループディスカッションや、お互いへのフィードバック等にも重点を置き、他者の意見も尊重しながら学びを深めることができるように授業を組み立てていくようにしました。また、可能な範囲で Google クラスルームや動画作成など、ICT を活用した授業を行い、学生の ICT 活用を促しました。
授業以外 (学生支援等)	スチューデントアワーを使ってバトミントンなどスポーツを行い、学生との親交を深めたり、担任の学生を中心に可能な限り学生との接点を持ったりするように心がけました。また、司書を目指す学生も含め、できる限り進路に結びつくような支援を行うようにしました。 学外での研究発表や論文投稿等でも本学の実践の様子等を積極的に発信するよう心がけました。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	ほとんどの授業でテキストを指定したので、予習・復習の点も考慮しながら、テキストに沿った形で毎回の授業を組み立てました。授業毎にスライド等を用意し、学生の理解が深まるように工夫しました。また、昨年度に引き続き授業毎のリアクションペーパー提出を課したのですが、毎回到振り返りをしっかりと行う学生が多買った印象です。まとめの形としてリアクションペーパーの提出を課すことで、より知識や技能の習得、定着が図れるのではないかと感じています。来年度も継続したいと思います。 講義内での発表やレポートなどは、主体的かつ意欲的に行われていて、発表方法はもちろんその創造性も高く評価できるものになっています。来年度も可能な限りアクティブラーニングを取り入れていきたいと思っています。 ICT 活用の場面も、それぞれ工夫していて使いこなしている様子がうかがえます。AI との向き合い方など、新しい視点についても今後は共有していきたいと考えています。
授業以外 （学生支援等）	個人的なことを相談してくれる学生もいて、話しかけやすい状況にはあったのではないかと思います。就職相談をしてくれる学生も増え、面接練習等も随時行うようにしました。その反面、学修に困難を抱える学生へのサポートが思うようにできなかったという反省があります。

5. 目標（今後どうするか）

授業	今年度に引き続き、より実践的な講義の中で社会人としての力をつけていけるように促すとともに、演習や発表、グループワーク等も多数取り入れながら主体的・協同的な学びを支援していきたいと思っています。また、学生一人一人の理解度、習熟度にも配慮しながら、きめ細やかな指導を目指します。
授業以外 （学生支援等）	来年度以降も、スチューデントアワーのような時間を活用して、より細かな学生支援を行ってきたいと思っています。また、就職活動に向けても随時支援を行っていきます。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教育	ひとり一人の学生を尊重し、それぞれが抱える課題等に適切に対処することを常に心がけました。授業においては、受講の様子やリアクションペーパーなどでの理解度等を意識しながら進め、また就職相談等においては、真摯に向き合うとともに、社会に出た時に困らないように丁寧に対応することが重要です。多感な時期の学生への適切なコミュニケーションの取り方は難しい面もありますが、まずはひとり一人の声に耳を傾け、相談役として適切な対応ができるよう、教育者の一人として、今後も心がけていきたいと思っています。
全学的な方針 「教職員としての 自覚」に関する目 標の達成	学生の規範になれるよう、常に学ぶことを心掛け、進んで研究会や学会に参加し、研究するとともに論文等の執筆も可能な限り行うようにし、自身の研究テーマや活動が見える形にすることを心がけました。 また、都道府県等の読書推進計画策定に積極的にかかわるとともに、特に滋賀県内の関連機関（滋賀県教育委員会や県内図書館、地域の団体など）と関係性をつくるようにしました。さらに、プラットフォームを活用した講座を2件実施、地域の施設等でおはなし会を行うなど、外部に向けても積極的に発信をしました。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	吉田 大輔
国文学科	講師
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
日本文学史	国文	1
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
子どもと文学	国文	2
ジェンダーと文学	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
基礎ゼミ	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
近現代文学講読Ⅱ	国文	2
文学と地域	国文	2
ゼミⅡ	国文	2

②担任制度

担任（1年生）		担任（2年生）	
---------	--	---------	--

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会	委員長	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員長	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	☒ 有・ 無
助成者	日本学術振興会

資金名	科学研究費
研究種目	若手研究
期間	2022 年 4 月から 2024 年 4 月（3 年間）
助成金額（期間中合計）	270 万円（3 年間の総計）
研究課題	文学と商工業の結索点としての「実業小説」—『実業少年』と幸田露伴に注目して—
備考（分担者等）	研究代表者

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援とを実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	【授業に関して】「類似」（似ている）を発見する力を鍛えたい 人間の思考は、4つの要素に分割して捉えられる。4つとは、「抽象」（まとめると）「具体」（たとえば）「類似」（似ている）「差異」（違う）である。これらの要素を事象に即して展開できる力が思考力なのだと考える。このうち、高校までの学校教育において、ものごとを抽象化する力と緊密な関係があるにも関わらず、もっとも育てられる機会が少ない能力は、「類似」を発見する力である。このような認識に基づき、さまざまなレベルでの「類似」を発見させる力を養い、生物学で言う「相同」（見た目は違うが本質は同じ）と「相似」（見た目は似ているが本質は違う）をさまざまな事象に対して発見できる力を涵養したい。 【授業以外に関して】アイディアを複数出せるように支援したい 授業以外では、自身のおかれた環境と自身の願望・志向とを折衷させながら、状況に対して複数のアイディアを自分自身で思い付き、検討し、最良のアイディアを実行できる学生を育てることを目標にする。こうした目標を持って、学生の相談に乗るなどの支援を行いたい。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	今年度の筆者の担当授業のうち、「基礎力プログラムⅠ」（国文1年・春学期）「基礎力プログラムⅡ」（国文1年・秋学期）「基礎ゼミ」（国文1年・秋学期）などの他の教員と連携して行った授業では、国文学科の学生に必要な力を総合的に育成していくよう努めた。 「基礎力プログラムⅠ」では大学での主体的な学びに必要な基礎知識を教授したうえで発表を行ってもらい、知識を確実なものにした。「基礎力プログラムⅡ」ではインタビューを伴うフィールドワークを取り入れ、グループでの学びにつなげていった。「基礎ゼミ」では、個人発表の力を育成し、2年次のゼミへと繋がるようにした。 筆者が単独で担当した授業、「日本文学史」（国文1年・春学期）「ゼミⅠ」（国文2年・春学期）「子どもと文学」（国文2年・春学期）「ジェンダーと文学」（国文2年・春学期）「近現代文学購読Ⅱ」（国文1年・秋学期）「ゼミⅡ」（国文2年・秋学期）「文学と地域」（国文2年・秋学期）では、上述の類似を発見する力を伸ばす展開を心掛けた。 「日本文学史」では、日本近代文学の成立をめぐる「近代」と「日本」をめぐる多くの言説に共通のものがあることに気づかせるように留意した。「ゼミⅠ」では、一人の学生に何らかの類似が見られる2つの作品を担当してもらうことで、共通の問題点を発見してもらうようにした。「子どもと文学」では、「イソップ寓話」から類似の問題を抽出し、絵本を作成してもらった。「ジェンダーと文学」では、1900年前後の性的言説が複数の同時代小説に見られる類似を学生が発見できるよう展開した。「近現代文学購読Ⅱ」では、漱石作品の類似主題へ言及しつつ「三四郎」を購読した。「ゼミⅡ」では、なにかとの比較の観点を重視しながら文学を論じてもらうよう指導した。「文学と地域」では、織田作之助の作品を集中的に読むことで、彼が描いた関西像の共通性を考えた。 上記すべての授業でリアクションペーパーを用い、学生の理解や関心、質問などを把握しつつ、授業を展開した。
授業以外（学生支援等）	特にゼミ生や担任学生とは日常的に学習・大学生活・就職などの相談に乗り、文章添削などを多く行った。その他、授業内外で、ゼミ生や担任学生以外の学生からの相談にも多く乗った。キャリア支援関連のイベントや入学前教育関連の業務などにも注力した。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	他の教員と連携して行った授業、「基礎力プログラムⅠ」「基礎力プログラムⅡ」「基礎ゼミ」では、いずれも積極的に真摯な受講生に助けられ、所期以上の成果となった。 筆者が単独で担当した授業、「日本文学史」「ゼミⅠ」「子どもと文学」「ジェンダーと文学」「近現代文学購読Ⅱ」「ゼミⅡ」「文学と地域」では、上述の類似を発見する力を育成しようとした。特に、「ゼミⅠ」「子どもと文学」「ゼミⅡ」「文学と地域」などの科目では、熱心に取り組み、こちらの所期以上のレポートや成果物を完成させた受講生がほとんどだった。 昨年度に引き続き「子どもと文学」で作成した絵本は、学生たちの許可を得て図書館で展示を行い、外部化するように努めた。 授業のリアクションペーパーやアンケートの反応も悪くなく、また、いずれの授業でも学生はおおむね積極的に取り組んでくれ、体感として教室の空気も良好だった。
授業以外 （学生支援等）	ゼミ生や担任学生を中心として、学生の多くが相談しやすい雰囲気が構築できたと考えている。就職に際しての文章添削などの相談を受けたことも多く、具体的な文章への助言などを含めて、学習・就職活動いずれの面でも支援できたと思う。

5. 目標（今後どうするか）

授業	個人の教育理念・目標としている「類似を発見する力の育成」を念頭に実践を継続していきたい。この力を身に着けるための授業方法や教材をさらに考えたい。来年度は、「文章表現」などの日本語ライティングに特化した科目も担当する予定なので、ライティング課題にもこの発想を取り入れていきたい。
授業以外 （学生支援等）	今年度と同じように、学生の多くが相談しやすい雰囲気を構築し、困難への対処を支援していくことに加えて、レポート以外の文章も含め、ライティング添削に力をいれたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教育	授業では学生の理解度を測定しつつも、最新の学問的知見を授業に反映させられるよう、教員自らが勉強を怠らないように努めた。さまざまな場面を通じて、学問とは強制されてやるものではなく、喜びによって行うものだということを、態度によって示し、なるべく知的な刺激を多く与えられるように努力した。
広報	広報委員会のメンバーとして、SNSの有効な運用などを議論し、また記事を定期的にアップするなどして、本学のよさを広報しようと努め、高校訪問なども行った。しかし、志願者増にはうまく繋がらず、2024年9月に本学の廃校が決定されたので、あまり努力は実を結ばなかった。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	伊藤 孝子
学科	学科長、教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
キャリアデザイン（子）	子ども	1
社会科概論	子ども	1
社会科教育法	子ども	1
家庭科概論	子ども	2
家庭科教育法	子ども	2
保育内容総論	子ども	1
教職実践演習（幼・小）	子ども	2
幼児と健康	子ども	2
幼児と環境	子ども	1

②担任制度

担任（1 年生）	無	担任（2 年生）	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD 委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	副委員長	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員長
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	副委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	副委員長
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員長	紀要編集委員会	委員
学生調査委員会	委員	教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会	委員	学長推薦選考委員会	副委員長
不正調査委員会	委員長	衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・保育や教育に関わる専門的な知識や技能が身に付くよう、授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れるなど学生の体験的な学びを推進し、理論と実践の往還に努める。また、体験的な学びを言語化する場を工夫する。 ・コミュニケーション力や協働力を高めるために、グループワークや発表などの機会を重視し、実践力の育成に努める。 ・学科長として、大学の教育方針、子ども学科の理念・目標等を踏まえ、円滑な運営が行えるよう、学科内の情報の共有や協議の充実を図る。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	①アクティブ・ラーニングの推進 担当する授業において、グループディスカッションやロールプレイ等の体験的な学びを取り入れるなど、授業改善に努める。 ②学生のコミュニケーション力・プレゼンテーション力の向上 小グループによる事例検討等、ディスカッションの機会を多く設定する。他者の考えを聞くことで自分の考えを整理したり、新しい発見が生まれたりする経験を大切にす。キャリアデザインの授業では、学生に自分の将来について考えさせ、将来のイメージに近づくために何をすればよいのか、グループワークやプレゼンテーションなどを通して明らかにする。
授業以外 （学生支援等）	①学生支援 保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導等を行う。 ②委員会活動等 子ども学科長という立場から、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催する。 ③研究活動・社会活動等 幼児教育や幼小連携・幼小接続に関する研修会・研究会等に参加し、専門分野の最新の状況を把握し、それらを学生に伝えるなど、学生支援に役立てる。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	①学生の理解度の向上 授業では、専門的な保育・教育内容を学生が理解しやすいように、プリントを工夫した。各時間の提出物（プリント等）には、コメントを書いて学生にフィードバックするように努めた。授業アンケートの結果からも、学生の理解度が向上していることを確認できた。 ②学生のコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上 授業では、アクティブ・ラーニングを意識して授業を行った。特にグループでのディスカッションやロールプレイ等を多く取り入れ、学生が主体的に学べるように工夫した。 キャリアデザインの授業では、社会で求められるスキル（課題解決力・コミュニケーション力・主体性・自主性・社会性・協働力など）について、体験やグループワークなどを通して向上を図った。学生からも、コミュニケーション力が向上したとの声が聞かれた。
授業以外 （学生支援等）	①学生支援 保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導、小論文指導等を学生支援担当課と連携して行い、公務員試験（幼児教育職）合格や私立園への就職内定に貢献した。 ②委員会活動等

	子ども学科長として、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催し、協議の充実を図るとともに、共通理解を図り、学生への伝達や指導の一貫性を確保するよう努めた。 ③研究活動・社会活動等 滋賀県内の公立幼稚園・認定こども園・保育所等の研究会で研修講師を務め、専門分野の最新の状況を知るよう努めた。 研修会や園内研究会での学びを踏まえ、学生に幼児教育や幼小連携・幼小接続等についての情報提供や助言を行った。
--	--

5. 目標（今後どうするか）

授業	授業では、学生の課題発見力・課題解決力、コミュニケーション力の向上を目指し、グループワークの充実に努めるとともに、個々の学生が課題を解決していける力を伸ばす。
授業以外 （学生支援等）	担任制、個別支援、学科内連携により学科全体で学生を支援していく。 委員会活動等に積極的に参加し、学内活動に寄与する。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	子ども学科長として、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催し、協議の充実を図るとともに、共通理解を図り、学生への伝達や指導の一貫性を確保するよう努めた
教育	保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導、論文指導等を積極的に行った。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	2024年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	平井 敏孝
学科	子ども学科 教授
学科以外の兼務職	学生サポートセンター長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	子ども	1
教育制度論	子ども	1
教育実習指導（小）	子ども	1
教育実習指導（小）	子ども	2
理科教育法	子ども	1
生活科概論	子ども	1
生活科教育法	子ども	2
教育とICT活用	子ども	2

②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員長
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	副委員長
学生委員会	副委員長	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG	センター長	教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会	副委員長	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	○
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無	
助成者		

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	各講義において、学生が「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、学生の資質や能力に合わせた言語活動や観察・実験、問題解決的な学習活動を工夫する。体験活動と言語活動を重視し、グループなどで対話する場面や学習を繰り返す場面を継続的にを行い、主体的に学ぶことの楽しさと充実感を実感させる。また、教員からの評価の場をできるかぎりとするようにし、成長を実感させるとともに、課題や次の目標を明確にさせていきたい。 学生サポートセンター長として、関係職員間での連携や情報共有を密に行うこと、学生へのサポートについては、学科の先生方との連携を図り、効果的に関わられるようにすることを重点として取り組んでいく。 広報委員長として、特にインタグラムの定期的な更新と内容の充実、効果的な高校訪問の在り方について、委員間での協議を重ね成果へと結び付けていきたい。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	本年度も、どの授業においても、観察や実験、問題解決的な学習の場を多く取り入れることができた。具体的には、グループでの活動や協議、交流の時間を、90分の授業の中に意図的に組み入れ、存在感や授業への参加意識が持てるようにし、主体的に学ぶことの楽しさを実感させるように努めた。 小学校教諭養成コースの学生は少人数であることから、個々人との対話を重視し、それぞれの課題や目標にあった内容や学校現場に直結した内容を準備し体験的な学習を進めるよう工夫した。
授業以外 （学生支援等）	「学生サポートセンター」の長として、設立の目的を考えながら運営の基本と位置付けたサポートセンター会議を開催し、情報交換や個別の対応についての協議の充実を図った。また、運営協議会等での報告や関係課と連携を図り、情報の共有や迅速な対応ができる組織になるよう努めた。 また、広報委員長として、高校訪問等広報活動に委員会あげて取り組もうとしたが、2年後の閉校という状況が明らかになり、後半は活動ができなかった。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	話し合い活動やグループ活動に意欲的に取り組める姿勢を育てることを目標にし、授業開始当初から積極的にグループワークや話し合い活動、全体での表現活動を取り入れるようにし、それぞれの場面で、具体的な評価を示し、より高い目標を持たせるように努めてきた。 結果としては、話し合い活動の進め方だけではなく、限られた時間内での発表の仕方や、わかりやすい表現方法等、回を重ねる中で成長を感じる姿が見られるようになった。 学生からは、自らの成長を感じるという内容や、話し合い活動への苦手意識が薄らいだといった感想が寄せられ、個人差はあるが、大学での学びに少し自信が持てるように感じた。 今後は、こうしたアクティブラーニングを主に置きながら、必要な知識を丁寧に伝え、それらを活用していける力を育てること、また、1科目だけでなく、系統的にこうした学びをつなげていくことが大切と感じたところである。
授業以外 （学生支援等）	「学生サポートセンター」の運営においては、学生の情報の共有が何よりも大切であり、その後の早い対応や指示が求められていると考えている。本年度については、合理的配慮が必要と思われる学生が在籍していたこともあり、具体的な対応について協議を繰り返し行う中で、支援を必要とする学生に関わることもできた。 まだ、試行錯誤のところもあるが、事務局等や学科との連携も密に図れ、学生への指示も早く行うことができたと考える。

5. 目標（今後どうするか）

授業	観察や実験、模擬授業等を行う授業については、少人数の授業であることから、計画の段階できめ細かな指導を行い、様々な考えに触れさせるようにし、模擬授業やその後の研究協議において学生の交流が活発化するよう心がけていきたい。 多人数の授業においては、引き続き90分の中に交流の場を設定し、様々な人との意見交流を経験させることを大切にしたい。その上で、多様な考えを受け入れ、自分の考えを高めていく学びを実感させていきたい。また、発表や表現活動に対しては、指導者側が適切な評価を伝えることで、次の目標を持たせるとともに、主体性を伸ばしていきたい。
授業以外 （学生支援等）	学ぶことが楽しいと実感し、主体的に学ぶ学生の育成には、何よりも本人の学ぶ意欲や資格を取る、卒業をするといった強い意志が必要である。こうした気持ちは入学後においても育てていくことが重要であり、面談や普段の生活の中での交流において、職員の共通理解を図るとともに、個々への声かけや支援の充実に努めていきたい。 このことは、「学生サポートセンター」においても重要であり、センター内で共有した事柄や情報については、本人の了解のもと関係者と共有するなどして、支援を求める学生の学ぶ意欲の向上に寄与していきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	本年度は、特別な支援を要すると思われる学生の入学があり、学生サポート委員会を開催し、その対応について数回にわたり協議をした。結果としては、本人の希望する形で、他の支援されている方々の理解も得ながら結論を出すことができた。 また、広報活動についても、委員の共通理解を図り意欲的なスタートが切れたようにとらえている。残念ながら募集停止となり、活動の方向を変更することとなったが在学生を対象とした活動が計画的に続けられている。
教育	担任してる学生については、定期的面談だけでなく、試験やレポートに関すること、就職に関すること、学生生活に関することなどについて、折を見て話を聞きサポートに努めた。 授業においては、提出物にはできる限りコメントや加筆修正を添えて返却するようにし、事後の学習に生かせるよう努めた。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	大橋英子
学科	子ども学科
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育実習Ⅰ	子ども学科	1
保育実習指導Ⅰ	子ども学科	1
保育実習Ⅱ	子ども学科	2
保育実習指導Ⅱ	子ども学科	2
乳児保育Ⅰ	子ども学科	1
乳児保育Ⅱ	子ども学科	1
幼児と言葉	子ども学科	1
保育内容「環境」	子ども学科	1
絵本の世界Ⅰ	子ども学科	1
絵本の世界Ⅱ	国文学科	1

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	委員
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	副委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会		湖国カルチャセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員	紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長	担当	小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・保育者を目指す学生の意欲を持続向上させながら、倫理観に裏付けされた専門的知識・技能を身に付け、保育現場で求められる実践的指導力のある保育者を養成する。 ・保育者としての責務を理解し、他者と協働・連携し、保護者の支えとなり、子どもの最善の利益を追求できる保育者を養成する。 ・修得単位が少ない学生・欠席の多い学生、を早期に見つけ、意欲をなくさないようにし、一人一人が充実した学生生活を送り、成長と自立ができるように教職員と協働しながら学習支援や生活支援を行っていく。 ・滋賀県による保育士支援会議・保育士人材確保部会、保育協議会等の会議に参加し、得られた最新の状況を学生募集や、学生支援、就職相談等に活かしていく。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	○実習指導においては、保育現場で求められる実践的指導力のみならず、学びや生活面といった多面的なサポートが求められるようになってきたため、人間力向上や基礎的な学力を身に付けていけるようにしている。学習へのサポートをしていくだけでなく、専門的知識と実践をつなげるために、乳児を見立てた人形を使っての実践・視覚的教材・模擬保育の実践など様々の方法を用いて理解が深まるようにしている。 ○免許取得に対する不安な気持ちに寄り添い、担任教員との連携を密にし、できる限り面談して不安材料を取り省くようにする。 ○模擬保育授業においては、ルーブリック評価を取り入れ、自己評価・他者評価を行い、振り返り・課題・気づきを重点にした授業を行い、保育実習に反映できるようにした。 ○「子どもの最善の利益とは」について、保育現場での経験事例を用いて、グループワークを通して学びを深められるようにする。 ○GPA 下位の学生には、個別支援指導を行った。指導案の作成・実習日誌の記録の取り方等特に苦手意識や困難感をもつ学生に対しては個別指導を行うなどできる限りの学習サポートを行う。 ○絵本士資格を学生に取得させることは、将来保育者を目指す学生にとって有意義であるため、今年度から講座での授業を実施する。認定絵本士養成講座カリキュラムに関するガイドラインに基づいた口座を開設し、多様なジャンルの絵本の紹介、作者の思い、出版者の方の立場など、学びを深めるようにゲストスピーカーを迎える。
授業以外 （学生支援等）	○教育・保育実習に先立ちインターンシップの機会や子育て支援事業への参加など実施し、学生たちが現場で働くイメージを膨らませながら、免許取得に意欲が持て保育士養成の理解が深まるようにする。 ○学生が主体的に「ぶんぶんひろば」を開催できるように「子ども学科の時間」を有効に活用し、安全・安心な環境構成の準備ができるようにサポートした。 ○高大連携授業・中高校生に対しての授業など行い、保育者や教員への関心や魅力、やりがいなど知ってもらえるように演習を交えた楽しい授業を行う。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	○講義で学んだことを実際の保育現場に想定して体験授業と連動させた授業は知識・技能の習得につながり実践力向上になった。また、紙芝居や手遊び、読み聞かせの技能を授業の中に取り入れ、経験を積んできたことは保育実習での意欲的な活動につながった。 ○模擬保育では、自己評価・他者評価をすることで、自らの保育実践を見つめることで新たな気づきを見出すことができた。学生からは「学生相互の評価をしたことで自らの保育を改善できた。」という声が多かった。 ○保育実習においては、子どもだけでなく親や様々な職員さんと人間関係を築いていく必要がある。社会人としての接遇マナーが求められるため、人と接する時のマナーを今後、もう少し取り入れていく。 ○絵本士の授業を受ける前の学生アンケートでは「絵本が好き」とか「資格を取りたい」など応えていたが、15回の講座後では、「子どもも大人にも、もっと絵本の魅力を伝えたい」「お話し会を企画したい」「絵本への関心が一層深まった」などが書かれていた。学生は絵本に対する意識や考え方が変わり、子どもだけでなく保護者や地域にも伝えたいという気持ちが高くなった。
授業以外 (学生支援等)	○定期的な面談を含め、呼び出し面談、実習などの不安解消面談、学習支援など学生生活全般についての悩みや不安などを聞き、随時対応してきた。学生理解を深める大切な場となり、学習意欲の向上が図れた。 ○就職試験合格者に対して、仕事への不安軽減のサポート面談を行った。個々に様々な不安を抱えていること、また、安易に考えていること等もわかった。誰もが生き生きと働けるように、現場での経験をいかしたアドバイスをを行った。学生は、仕事に対する責任感を感じながらも保育者としての仕事に期待を持ったのではと思った。 ○ぶんぶんひろば開催は、安心・安全な環境構成など、授業で学んだ知識・技能をフルにいかすことができる実践の場となった。 ○高大連携（北星・翔西館）での授業、高校生ボランティア部の「ぶんぶんひろば」参加、中学生の来校等では、中高校生に授業の一部を一緒に楽しんでもらったり、保育の専門性について情報を発信したりして保育者や教員の魅力等を伝えることができた。

5. 目標（今後どうするか）

授業	○保育者の道を志し、入学してきた学生の潜在的な力を引き出せるように、そして免許取得につなげ保育現場で活躍できるように、一人一人にそった学習支援をしていく。また、実習に関わる教員と連携して学生への学習支援において協働していく。 ○負担や不安になる実習日誌や指導案の書き方を理解させ、個別指導も取り入れながら丁寧な指導をしていく。 ○意欲の持続向上を図るために、実習の振り返りを少人数、あるいは個別に丁寧に行っていく。
授業以外 (学生支援等)	○保護者支援は保育者に課せられた責務である。本学の子育て支援事業「ぶんぶんひろば」は、唯一子どもや保護者と関わることによって子どもの成長・発達を実感する場である。今後も、定期的に子どもや保護者と関わることで学びの意欲を高め、自信をもって実習に臨める機会をつくっていく。また、「ぶんぶんひろば」だけでなく地域の子育て支援の現場に入れる機会をできるだけつくる。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教育	保育者としての免許を全員が取得できるように実習指導には特に力を入れてきた。実習前指導では、理解不足や能力不足で不安に陥っていないか一人一人に寄り添い学習支援をしてきた。実習事後では学生が体験したマイナスのエピソードには丁寧に聴取し、学生に保育の基本を伝えながら、学生が客観的に振り返ることができるように指導した。 結果として、保育の道を志した全員がやり遂げ、免許取得につながる実習を終えることができた。
担当業務	「ぶんぶんひろば」等、保育者の魅力向上につながる学生の主体的な活動をサポートしてきた。「子育て広場スキップ」での活動やアル・プラザにおける読み聞かせや人形劇（当日台風のため中止）は、保育者になる上で貴重な体験であるため、活動が活発に進むようにサポートをした。学生はこの活動経験から「保育者になりたい」という意識が向上した。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図

以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	松宮孝明
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
役立つ文章表現	子ども	1
国語科概論	子ども	1
算数科概論	子ども	1
算数科教育法	子ども	1
教職概論	子ども	1
教育課程論	子ども	1
道徳の理論と指導法	子ども	1
教職実践演習	子ども	2

②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会	委員長	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	副委員長
教学調査委員会	委員	学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	未定
資金名	未定
研究種目	未定
期間	未定
助成金額（期間中合計）	未定
研究課題	未定
備考（分担者等）	未定

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	① 本学の准教授として、第一に、保幼小の教員を目指す学生に対して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を提供し、思考力・判断力・表現力を身につけた社会に有用な人材育成に寄与する。 ② 第二に、大学の教員として、教育方法や広く教育全般についての研究を深め、論文にまとめ、発表していく。 ③ 最後に、このような活動を通して、本学の魅力を広く発信し、価値や魅力の向上に貢献する。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	①現場感覚を取り入れた授業の工夫・・・保幼小の現場の授業ビデオ等を活用したりして、可能な限り、小学校現場で38年間教鞭をとってきた経験を生かした。 ②体験重視・・・講義だけで終わらず、可能な限り操作活動等を取り入れ、体験的な学びを実現した。 ③ICTの活用・・・Google workspace（Classroomなど）を大いに活用し、学生に慣れさせるとともに、授業に有効に活用した。
授業以外（学生支援等）	①学生支援・・・担任の学生を中心に、設定された面談時以外でも、こまめに声をかけ、困りごと等に対応した。 ②委員会活動・学科以外の兼務職・・・FD委員会、教学IR担当では、事務局と連携しながら、取りまとめ等を積極的に行った。 ③研究活動・社会活動等・・・「ICT活用の推進とその先～小学校算数科の実践を通して～」についてまとめ、紀要に掲載した。草津市教育支援委員会に副委員長（学識経験者）として参画した。算数科教育で大津市教委に協力したり、教科書会社の執筆・編集に関わった。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	①学生の興味関心、理解度の向上・・・意欲をもって授業に参画してくれたように思う。 ②学生のコミュニケーション能力の向上・・・授業の中に少人数でのディスカッションを多く取り入れ、自然に自分の考えが語れるようにできたと思う。
授業以外（学生支援等）	①学生との意思疎通の向上・・・就職支援等、きめ細やかにできたと思う。 ②学科内の取り組みに参画・・・FD委員会、教学IR担当等を中心に、与えられた役割は果たせたように思う。

5. 目標（今後どうするか）

授業	①卒業後の現場を意識した授業になるようにさらに工夫する。 ②体験的な活動をもとに、さらに思考力・判断力・表現力を高める授業の展開を工夫する。
授業以外（学生支援等）	①学生とのコミュニケーションをさらにきめ細やかにする。 ②研究活動・社会貢献活動をしっかり行う。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

全学的な方針	「教職員としての自覚」に関する目標の達成に努めていますか？ →教育や教職員に関する時事問題に関心をもち、新聞記事の切り抜き等をして、テーマについては関連事項を調べまとめたりして、発展的に学んだ。
担当業務	大学全体及び学科の担当業務を計画的に進めていますか？ →FD や IR の担当として、研修会等を企画運営できた。

7. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 組織図
- 以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティー칭ング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	西松 秀樹
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	学生サポートセンター

ティー칭ング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティー칭ング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティー칭ング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティー칭ング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
発達心理学	子ども	1
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	子ども	1
子ども家庭支援の心理学	子ども	2
子どもの理解と援助	子ども	2
教育相談	子ども	2
カウンセリングマインド研究	子ども	2
教職実践演習（幼・小）	子ども	2
教育情報処理	子ども	2
子どもの心理学	国文	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	委員長
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	

FD 委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	委員長
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会	委員長	教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	委員長

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会 * 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・基礎力プログラムⅠ（初年次教育）を通し、学生に必要な基礎的能力を育成するとともに、学生の長所を認め、笑顔を絶えないようにすることで、キャンパスに明るい雰囲気醸成していく。互いに力を合わせて卒業するという目標づくりに努める。 ・保育者・教育者として必要な専門的な知識や技能の習得に向けて、見通しを持たせ、具体例をもとに討論をすることで、「主体的・対話的で深い学び」となるよう工夫する。 ・社会に貢献できる人材の育成に向け、講義や演習を通し、職業人としての「使命感、倫理観」を身につけさせ、人生において主体的に学び、挑戦する契機にしていく。 ・就職支援のため、公務員試験等に見通しをもたせ、学生が前向きに挑めるよう支援する。 「公認心理師」の視点から配慮の必要な学生については、サポートセンターの関係教職員と情報共有し、不適応をおこさないようサポートに努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	①主体的・対話的で深い学びにつながる授業 保育や教育の事例から対応策を検討し、ディスカッションにより様々な考え方を取り入れ、深い学びにつながる授業を目指した。また、課題の提出等はGoogle Classroom を活用し、質問しやすい環境作りに努めた。 ②「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を高める授業 グループワークを通して実習、ディスカッションした内容の報告やカウンセリングスキルを活用した実習を取り入れ、保育や教育に求められるコミュニケーション能力の向上に努めた。また、PowerPoint を活用した発表を通して、プレゼンテーション能力の向上に努めた。 ③教員としての経験を伝えることを通しての「使命感や倫理観」を高める授業 教職経験から得た知見を具体的に伝えることで、保育や教育を担う使命感や倫理観を育成することに努めた。教職のやりがいや喜びを伝えることで就職への意欲を喚起させた。
授業以外 （学生支援等）	①対話を通じた学生の状況把握 授業以外の場でも積極的に声をかけ、心身の健康状態の把握に努めた。配慮の必要な学生については、サポートセンターで情報交流し、援助できるようにした。公認心理師や学校心理士の研修を積極的に受講し、適切な心理学的支援の力量を高めるよう努めた。 ②公務員試験志望者への積極的支援 公務員試験を受験しようとしている学生に必要な資料を提供し、受験にむけてのモチベーションを高めようと心がけた。 ③スチューデントアワーを活用した学生の理解 イベントや体育館での球技に参加し、学生との交流を増やし、キャンパスに明るい雰囲気を醸成するよう努めた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	学生は主体的に授業に取り組み、積極的に発表するようになった。また、表現力が向上し、自信を持って意見を発表する学生が増えた。到達目標を達成した学生が100%で、「よく理解できた」という設問に肯定的な評価をした（95～100%）。
授業以外 （学生支援等）	キャンパスに明るい雰囲気が醸成されている。こうした雰囲気で学生生活の満足度を高めることが、学生の不適応状態を少なくすることに結びついている。

5. 目標（今後どうするか）

授業	保育士や小学校教諭として就職する割合を高水準で維持し、将来につながる資格と技能が習得できる授業を実施していく。
授業以外 （学生支援等）	相談しやすい関係づくりを構築し、学生支援を通して、学生の満足度を高めていきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	大学全体及び学科の担当業務を確実に把握し、計画的に進めた。大学全体では9委員会に所属し、そのうち、4委員会で委員長を務めた。
広報・募集	オープンキャンパスの動員数や大学 SNS の情報に関心を持ち、インスタグラムを活用して、広報活動に努めた。

7. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	野瀬 薫
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	ALO

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅡ	子ども学科	2
キャリア・デザイン	子ども学科	1
理科概論	子ども学科	1
国語科教育法	子ども学科	1
特別活動及び総合的な学修の時間の指導法	子ども学科	2
教育方法・技術論	子ども学科	2
生徒指導及び進路指導論	子ども学科	1
教職実践演習（小）	子ども学科	2
教育実習（小）	子ども学科	2
教育原理	子ども学科	1

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	副委員長	広報委員会	委員
認証評価準備委員会	副委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員
FD 委員会	副委員長	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	委員長
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し向上心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・学生の毎時間の振り返りを大切にし、教員とのコミュニケーションの一助とする。可能な限り丁寧なコメントを心がけ、学生の学ぶ意欲に答えられるよう努める。 ・教職課程コアカリキュラムを踏まえたシラバスに則り、毎時間の課題を吟味の上精選するとともに、学生同士の意見交流を促すよう「問い」や「ワーク」を工夫する。 ・学生の自主的な学習を援助できるよう適切な復習の課題や発展的な学習課題を提示する。 ・教科教育法等においては、適切な機会を設けて ICT 機器を活用し、学生自らも使いこなせるようになるよう努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・講義においては、パワーポイント等を用いた資料により視覚的にも理解を深められるように配慮する。講義の要点等をとらえやすくする。 ・講義中にペアや四人グループで意見を交流できるようテーマに沿った「問い」や「ワーク」を多く設定する。 ・講義のまとめの段階で、「本時学んだこと」「本時考えたこと」を自分の言葉で表現し、ペアで意見交流を行う時間を設ける。 ・講義後の「振り返りカード」の記入を通して個別の質問を受けやすくし、学生の質問や感想に対して、できるだけ丁寧なコメントを心がける。 ・特別活動及び総合的な学習の時間の指導法をはじめ、可能な範囲で多くの体験活動を取り入れるように努める。 ・教科教育法の授業のみならず、他の講義においても可能な限り ICT 機器を活用する。
授業以外（学生支援等）	・学生懇談会等の機会を有効に活用し、学生の思いをくみ取る。 ・学生から相談を受けた際には、同僚とも相談の上、チームとして真摯に対応する。 ・学生の様子、学び、頑張る姿・笑顔を伝えられるよう基礎力プログラムⅡやキャリア・デザインのグループワークの様子等について、インスタグラム等での発信に努める。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	・学生は熱心に講義メモをとる姿が見られ、講義後の「振り返りカード」を見ても、学生の理解が深まったと思われる。 ・講義のまとめの段階で行った「学んだことを交流し合うペア活動」により、「振り返りカード」記入の際にも、自分の考えを適切に表現できる学生が増えた。 ・「生徒指導・キャリア教育」の講義において、昨年度以上に生徒指導上の課題に対する事例研究やワーク等をより多く取り入れた。今後も学生がさらに意欲的に学ぶことができるよう発展的な学習課題等を適切に提示していきたい。 ・前年度の講義では「あなたは、この授業の予習・復習など自主学習に1週間あたりどのくらいかけましたか」という問いに対するポイントが低かったため、今年度は講義の復習用プリントを作成し配付した。しかし、今年度もあまり改善が見られなかった。
授業以外（学生支援等）	・学生から相談を受けた際には、同僚とも相談の上チームとして真摯に対応した。 ・基礎力プログラムⅡやキャリア・デザインのグループワークの様子等、インスタグラムでの発信を行った。

5. 目標（今後どうするか）

授業	・今後も、ペアワークや学生同士の意見交流が活発にできる講義を目指し、学修テーマに迫る「問い」や「ワーク」の内容を工夫し、より有意義な意見交流となるように努める。 ・今後も、講義のまとめの段階で「本時学んだこと・考えたこと」を交流する時間を設定し、自分の学びを言葉で表現し、発信できる学生を育てられるよう努める。 ・今後も、「振り返りカード」等により学生の要望・思いをできるだけくみ取り、可能な限り丁寧なフィードバックを心がける。 ・学生が、試験前だけでなく、日頃から意欲的に学ぶことができるように、予習・復習の課題や発展的な学修課題を適切に提示していきたい。
授業以外 (学生支援等)	・担任制、個別支援、先生方との連携により子ども学科全体で、学生を支援していけるよう努める。自己点検・評価委員会については、本年度の反省を生かしより充実した活動となるよう努める。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教職員としての自覚	・法令順守、ハラスメント防止などに努めることはもちろんのこと、学科内での「報告・連絡・相談」、コミュニケーション等の促進に努めた。学生と、適切に関わろうと努めた。
広報・募集	・教授会資料や本学インスタグラムを通して、オープンキャンパスの動員数・アンケート、大学イベント情報等を把握するとともに、ペルソナを意識した発信となるように努めた。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	三岳貴彦
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
社会的養護Ⅰ	子ども	1
社会福祉	子ども	1
子ども家庭福祉	子ども	1
施設実習指導	子ども	1
社会的養護Ⅱ	子ども	2
子育て支援	子ども	2
基礎力プログラムⅡ	子ども	2
施設実習	子ども	1

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会	委員長	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	担当

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	担当

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	

期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成を行う
個人の教育理念・目標	・保育士の専門的な知識と技術を習得し、職業倫理が陶冶される保育者を養成する。 ・演習科目では主体的且つ能動的に学習出来るようアクティブラーニングを取り入れ授業作りを工夫する。 ・担当科目が未就学児だけでない18歳未満の児童を対象とした福祉の問題を取り扱うことから、児童の取り巻く問題と福祉による支援について関心が持てるよう取り組む。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・ルーブリック評価の活用と個別指導 施設実習指導のレポート課題(期末試験ではなく通常授業回の時期に課したレポート)は提出後、添削で赤を入れたものを学生に返却し、併せて学生の文章で良い点、悪い点をそれぞれ伝え、学生の文章力向上を目指す。 ・期末試験評価の開示 社会的養護Ⅰ、社会福祉、子ども家庭福祉では、1年生開講科目であり、学生はそれぞれの分野の専門知識をまず身に付ける事が必要な為、期末試験の結果は成績確定後に開示している。学生一人一人が自分の実際の学力を理解できるよう工夫している。 ・アクティブラーニング 社会的養護Ⅱ、子育て支援では演習科目という事もあり、グループワークでのディスカッション、プレゼンテーションを実施し、主体的な学びにつながる様、工夫する。 ・ゲストスピーカーの活用 社会的養護での里親家庭の支援について、社会福祉法人こばと会の協力を得て、里親支援専門スタッフと里親による講義を開いている。里親支援に関しては実習でも学べない領域の為、里親当事者と支援者による話を直接学生に伝える工夫をしている。
授業以外 （学生支援等）	・レポート等添削指導 主に施設実習指導では、実習施設への提出書類も多いことから、学生に授業時間以外での添削指導を行う。併せて学生の実習等勉強での悩みがあれば話を聴く。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	・ルーブリック評価の活用と個別指導 レポートを添削し、返却時に個別指導をしている。教員として気づいた学生の文章作成での課題や文章のクセといった事を個々に話すことができ、学生の困っている部分がわかる事につながったし、実習での日誌作成での助言指導にもつながった。 ・期末試験評価の開示 開示した科目については、学生は実際の点数を見ているので納得せざるを得ないと思う。実際に総合成績について意見が出る事はない。 また、実際にテストを添削すると、色々な傾向がある。「誤字が多くて減点」、「教科書第〇講あたりの設問が全滅(覚えていない領域)」、「覚えた専門用語がうろ覚えだったため、正式名称が書けず間違えた」等。テストの開示の際に学生一人一人の傾向・クセといったものも併せて説明し、「テストの結果」だけを伝えるのではなく、「どうすれば自分がこれから伸びるか」と今後の改善ポイントを話している。 ・アクティブラーニング 授業評価アンケートにも話し合い、協働して課題に取り組む点について好評を受けた。 ・ゲストスピーカーの活用 学生は子どもに関心が注視しがちだが、「親(保護者)の思い」を直接聞くというのは実習でもあまり経験する事はない。講義後にリアクションペーパーを課しているが、学生にとっても当事者の声を直接聴くのは刺激になっているとみられる。
----	--

	また、リアクションペーパーはコピーをこぼと会にも送っている(学生には事前に説明済み)。学生の立場として、職員に直接送る感想文でもあり、文章作成が日頃よりかなり気を付けて文章を記載している事が読み取れる。
授業以外 (学生支援等)	・レポート等添削指導 特に12月に多かったが、施設実習の提出書類の添削指導では、個別面接を通して学生が「言語化できずに文章が書けずに困っている場面」に立ち会う事もあり、個々に助言指導した。かかわりの中で学生の中には日常生活の中でも言語化できない事で「周囲に伝える事が出来ない」「伝えられない(表現できない)ので自分の中で我慢する」といった生い立ち・人間関係を垣間見る事はあり個別指導時に助言する事もあった。

5. 目標（今後どうするか）

授業	・社会的養護Ⅱ、子育て支援でのアクティブラーニングは継続し、より良い演習課題を設定できる様、取り組む。
授業以外 (学生支援等)	・課題の個別指導を通して、学生とのコミュニケーションを継続する。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

ガバナンス	・教務委員長となり、教務課との「報連相」を含めたコミュニケーションを密にし、大学での円滑な教務事務運営につながる様、取り組んだ。
担当業務	・小児救急法講習では、6月の開催に合わせ運営に従事した。 ・実習事務では、学科内だけでなく各実習施設ともコミュニケーションを図ってきた。今年度は施設実習の期間中に積雪による実習日程の変更等があり、全実習施設と電話連絡を取りながら変更等の対応をとり、円滑に進む様、実習を全うした。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	古川 礼子
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育者論	子ども	2 年
保育内容（言葉）	子ども	1 年
保育原理	子ども	1 年
保育実践演習	子ども	2 年
児童文学	子ども	2 年
教育実習指導（幼）	子ども	2 年
教育実習指導（幼）	子ども	1 年
教育実習（幼）	子ども	2 年
教育実習Ⅱ	子ども	2 年
絵本の世界Ⅰ（子）	子ども	1 年

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長	担当	子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成を行う。
個人の教育理念・目標	・実習を担当する指導者として、理論だけでなく、実際の保育現場や社会の中で使える知識やスキルを指導し、専門的知識や、実践的指導力を身に付けさせる。 ・模擬保育では、悩んだり、失敗したりすることを経験し、多面的に物事を考える力や自ら改善点を見出す力を養う。また、うまくいかない時こそ、素早く再構成ができる保育の引き出しを増やすことや、どんな子どもの姿も肯定的に受け入れ、対応できる乳幼児理解の本質についての理解ができる力が養えるようサポートする。 ・組織やチームで協働していくことが必要不可欠と考えることから、コミュニケーション力の向上を図る。 ・子どもの人権を尊重し、子どもの心の声を聞き取り一人一人の子どもの最善の利益を追求する保育者を養成する。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・保育者は、人を育てる仕事であることから、まずは、自身の自己肯定感や自尊感情が高まる取り組みとして、授業内でもワークやグループ活動の機会を多く取り入れた。自分の意見として胸を張って表現し、相手の意見も聞き入れながら、グループとしての成果や課題を見出せるよう指導や支援に努めた。 ・模擬保育時の振り返りシートを活用することで、友だちの意見や改善点に気づく機会となり、保育の引き出しを増やすことにつながった。 ・一人一人の子どもの成長過程に、家庭環境や社会背景が大きな影響を及ぼす現実があり、園が地域の子育て支援の拠点であることも認識しながら、乳幼児理解が図れるよう指導した。
授業以外 （学生支援等）	“ぶんぶんひろば”の実践において、計画や準備段階から、自分の意見を積極的に表現できる場をもち、一人一人の学生の良さが発揮できる活動内容や役割を学生自身が決定できるよう指導や支援に努めた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	模擬保育では、実際の保育の場面を想定し、指導法を試すことで、保育者としてのスキル向上が養われた。また、遊びを通して、予期していない状況やトラブルが発生することもあり、これらに対処する力や柔軟さを身に付けた。 グループワークでは、日常で交流が見られない学生同士も、役割を決めたり協議を繰り返したりして、グループ毎に成果や課題をまとめ、発表に至る過程の中で、コミュニケーション力の向上が図れた。
----	---

授業以外 (学生支援等)	グループで効率よく作業を進めるためには、時間をうまく配分し、管理していく能力が必要になる。「グループ内で出た意見をまとめ、3分で発表する」等の課題を出すと、はじめはどのグループもうまくいかず四苦八苦の姿が見られた。授業内でそのような経験を増やしていくと、時間に対する意識が高まり、タイムマネジメントのスキルアップにつながった。時間の管理は、他の多くの場面でも活用できる大切な要素であると感じている。
-----------------	---

5. 目標（今後どうするか）

授業	・ 保育者を目指す学生の意欲を持続向上させながら、倫理観に裏付けされた専門的知識・技能を身に付け、保育現場で求められる実践的指導力のある保育者を養成する。 ・ 保育者としての責務を理解し、他者と協働・連携し、保護者の支えとなり、子どもの最善の利益を追求できる保育者を養成する。 ・ 修得単位が少ない学生や欠席の多い学生を早期に見つけ、意欲をなくさず、一人一人が充実した学生生活を送り、成長と自立に向け、教職員と協働しながら学習支援や生活支援を行う。 ・ classroom を効果的に活用し、提出物の確認など効率化を図る。
授業以外 (学生支援等)	・ 滋賀県による保育士支援会議・保育士人材確保部会、保育協議会等の会議に参加し、得られた最新の状況を学生募集や、学生支援、就職相談等に活かす。 ・ 担任制、個別支援、学科内連携において学生を支援する。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

全学的な方針 「退学者を出さない支援」	・ 理解不足の学生には、定期試験前や授業の前後などに思いを聞いた。不安に感じている点について丁寧にやりとりし、サポートしたり、個別の指導を行ったりしながら、学習の遅れや理解不足を少しずつ解消していった。 ・ 提出物や苦手な科目の理解不足などについて進捗確認を行った。 ・ 家庭やバイトの状況を聞き、学業に支障が出ていないかなど相談を行った。
教育	保育者になるために、履修した専門的な理論と技術を生かしながら、教育実習を無事に終わることができた。「子ども学科の学修」や「学修を支援するガイダンス」を定期的を実施し、事務書類の作成方法、電話依頼の手順、オリエンテーションについて丁寧な指導と確認を行った。また、実習先で困った際、すぐに相談できる体制の整備、フィードバックの提供、専門的な保育のスキルの支援を行い、学生の実習に対する不安や心配が軽減できた。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月 1日 / 年度末 3月 1日
氏名	利光 奈穂美
学科	子ども学科
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
幼児理解と援助	子ども	1
幼児と人間関係	子ども	2
保育内容（健康）	子ども	2
保育内容（人間関係）	子ども	2
基礎力プログラムⅡ	子ども	2
教職実践演習（幼・小）	子ども	2

②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	

研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	○建学の精神に基づき、子どもを知り、子どもの内面を理解し、温かいまなざしで愛情をもち関わることのできる使命感や責任感にあふれた心豊かな保育者を育成する。 ○理論的な学修と共に、専門的な知識や技能を身につけ、実践的な能力が習得できるような指導を行う。保育者としての資質と専門性を高めるため、実践事例や保育映像を活用し、保育カンファレンスやアセスメントなどのグループワーク・ディスカッションを行う。自分の気づきや考えを言葉で表現すると共に、他者の様々な考えや見方を知り傾聴することを繰り返し、コミュニケーション能力を高め、体験的な学びを深める授業を行う。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・文部科学省の実践動画や保育現場の実践映像、事例などを活用し、学生が考察やディスカッションを行った後、子どもの姿や保育者の援助や環境の構成について、具体的に解説を行い、学びを深められるように務めた。また実際に保育者として体験できるように実技を取り入れ、解説を行うようにしている。 ・実際の保育を想定し「チーム保育」を意識し授業を行った。グループワークで保育計画・準備・教材研究などを繰り返し、指導案を作成し、模擬保育へと展開した。 ・模擬保育授業においてはルーブリック評価を取り入れ、自己評価と相互評価を行い、主観的、客観的な省察から学生が得た学びを整理し、実習に反映させるようにした。 ・授業の振り返りや授業の理解度などについてリアクションペーパーを取り、次の授業に反映させ、学びが積み重ねられるようにした。提出物に関しては、評価しフィードバックを行い、学びの意欲向上につなげた。
授業以外（学生支援等）	・スチューデントアワーでは、様々な行事に参加し学生と交流したり、学園祭で模擬店の手伝いをしたりした。またC I 講習の実技研修（合宿）の引率を行った。 ・高大連携、高校ガイダンス等で、出前授業や大学紹介などを行った。 ・彦根市、多賀町などの幼稚園・保育所・認定こども園等の園内研究会や保育研修会などで研修講師を務めた。学生に幼児教育や現場の状況についての情報提供を行った。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	・基礎力プログラムⅡの授業では、幼小の円滑な接続に向けての学習課題を設定し、長浜南小学校との交流授業を実現した。また学生のコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を図った。学生の学びは、長浜市内私立園の先生方に公開し評価を得て学生の自信につながった。 ・グループでの模擬保育は、他者とのコミュニケーションを取り、意見を交わし、計画を基に保育を実践する力が身に付けられるよう工夫した。計画の段階から活発な意見交換ができ、準備から実践まで主体的で体験的な学びにつながった。 ・保育者としての幼児を見る目や保育者の心構え、姿勢など愛情をもったかわりができるように、繰り返し保育の基本を伝えることが大切だと感じている。
授業以外（学生支援等）	・学生同士の人間関係や実習に向けての不安、就職相談など、担任の学生以外にも多くの学生から相談を受けた。個々にアドバイスや助言を行い励ました。 ・面談や相談において、個々の学生の思いや悩みを丁寧に聞き、学生の心の拠り所となるようあたたかいかわりに努めている。

5. 目標（今後どうするか）

授業	・ 学生が保育現場を想像しながら学べるよう、実際に働く自分をイメージできるようなわかりやすい授業を心がけたい。また、学生が主体的に、意欲的に学びたくなるような授業の工夫を重ねたい。
授業以外 （学生支援等）	・ 委員会等に積極的に参加し学内活動に寄与する。 ・ 自分に与えられた仕事に、真摯に前向きに責任をもって取り組みたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	・ ぶんぶんひろば開催に向けて、学生の貴重な実践での学びとなるように、計画や学生指導などを行った。また地域子育て支援として、参加してくださった親子の憩いの時間となるように、安心安全な開催に努めた。
広報	・ 学生募集や学生生活の紹介など、SNS やブログでの広報活動に努めた。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	山田 明日美
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	学務課学生支援担当キャリアデザイン係、学生サポートセンター

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
音楽Ⅰ（ピアノ）	子ども	1
音楽Ⅱ（ピアノ）	子ども	1
音楽Ⅱ（音楽表現法）	子ども	2
音楽Ⅲ	子ども	2
幼児と音楽表現	子ども	1
音楽科教育法	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	委員長
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	委員長
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	担当
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	音楽における専門的知識や表現力を身に付けさせるため、個人のレベルに応じた丁寧な指導を心掛けるとともに、授業内容の工夫と改善を図る。 学生支援においては、学生に寄り添い、できる限りサポートできるよう努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	ピアノの授業においては、昨年度の学生からのアンケートをもとに授業内容などを改善してきた。個々のレベルに応じた丁寧な指導に加え、保育者・教育者としてふさわしい弾き歌いができるよう、ピアノの技術の向上だけでなく、歌声や表情なども含めて豊かな表現力を身につけることを目指して指導してきた。 音楽表現の授業においては、昨年度の反省を活かし、知識→実践→グループ発表に上手く繋げ、90分の授業の中で効率よく授業が進められるよう内容を改善しながら行った。 音楽科教育法の授業においては、受講している学生の能力や理解力に柔軟に対応できるよう、授業研究を深めながら臨機応変に授業を行った。
授業以外（学生支援等）	学生の要望に応え、放課後や空き時間など授業以外の時間にもピアノのレッスンを積極的に行ってきた。 また、学生支援担当としても、悩みの相談など、できる限り学生に寄り添えるよう、必要に応じて話を聞く時間を作ってきた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	昨年度に比べると、特にピアノの授業においては不満を言う学生が少なくなり、改善して良かった部分が多かったように思う。他教科も成果は出ていたと思う。
授業以外（学生支援等）	学生に寄り添うことで信頼関係もできるため、学生一人一人に関わることを増やすことができ良かったと思う。

5. 目標（今後どうするか）

授業	今後も引き続き学生目線で更なる授業改善をしていきたい。しかし、求めるものが厳しすぎた教科もあるため、評価規準については改めて見直していきたい。
授業以外（学生支援等）	今後も授業以外でも気軽にピアノのサポートや相談に乗ることができるような雰囲気が作れるよう、学生との関わりを積極的に増やしていきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	昨年度の経験を活かし、学校園インターンシップ、ぶんぶんひろばなど、子ども学科に関する担当業務を効率よくこなせるよう努めた。 また、高大連携の活動においても、昨年同様に行ってきた。
教育	学生のための授業が展開できるよう、昨年度より改善や工夫をしてきた。 また、学生支援担当として学生の悩みや相談にもできる限り対応できるようにした。

7. 記載内容に関する根拠資料

- | | | |
|--------------|----------|-----------|
| ①令和6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | シラバス |
| ②令和6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | 科目別成績分布状況 |
| ③令和6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | 担任一覧表 |
| ④令和6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | 委員会構成名簿 |
| ⑤令和6(2024)年度 | 滋賀文教短期大学 | 組織図 |

以上

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	日置 佑輔
子ども学科	助教
学科以外の兼務職	入試広報課入試広報係

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	子ども	1
キャリアデザイン	子ども	1
健康とスポーツ	子ども	1
体育科概論	子ども	1
体育科教育法	子ども	2
教育情報処理	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	委員
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
--------	-------

助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	○ 教育を通じて地域社会で活躍できる人材を育成するため、基本的なコミュニケーション能力や問題発見・課題解決能力を身につけることができるよう、また、教育に必要な専門的知識および技能を身につけることができるよう指導する。 ○ 学術研究、教材研究を継続的に実施し知識をアップデートすること、教育に関して常に省察と改善を繰り返すことで、より優れた授業・教育を実践できるよう努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	○ 問題発見・課題解決力を身につけるためには、その背景にある基本的な知識が必要不可欠となる。このため、授業ではまず基本的な知識についての解説を行い、その後、獲得した知識等を活用し、さらに深められるようなグループワークや模擬授業等の活動を実施した。また、毎回の授業では、ディスカッション等の活動を実施し、知識の獲得を促すよう工夫した。 ○ 「体育科概論」「体育科教育法」の授業では、体育科教育に関する基礎理論や各運動種目の基本的な技術について身につけさせるとともに、最新の教材を用いた授業実践例や、ICTを活用した授業実践例を紹介しディスカッションを行い、体育授業についての理解を深めるよう工夫した。
授業以外 （学生支援等）	○ 担任面談および面談時以外にも、できる限り学生との対話や相談等への対応を行い、必要な支援を講じることができるよう努めた。 ○ 学会大会への参加および学術研究・教材研究を継続的にを行い、体育科教育および運動・スポーツに関する最新の研究動向を調査し、自らの知識および授業内容のアップデートに努めた。 ○ 入試広報課入試広報係として、オープンキャンパスや高校ガイダンスにおいて学生の募集活動を行った。大学の特徴等について詳しく説明するとともに、高校生からの相談・質問には丁寧に回答を行った。また、教員と兼職という立場を活かし、普段の学生の様子や授業の様子等も伝え、具体的なイメージを持ってもらえるよう工夫しながら募集活動を行った。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	○ 理論理解とその後のグループワーク等という授業方法については、グループワークで解決すべき課題について明確に捉え、解決に向けた密度の高い活動ができていたこと、授業アンケートにおいて授業内容の理解度の値が高かったことから、授業の内容について深く理解を促すことができた。 ○ 授業実践例を紹介だけに留めず、ディスカッションを行うことで、各教材や教具の強み・弱みなどについて検討し、将来体育授業を実践する際のイメージを持たせることができた。
授業以外 （学生支援等）	○ 担任面談や相談時には、必要に応じてアドバイスを行った。 ○ 秋学期の授業では、運動・スポーツに関する最新の研究を盛り込んだ授業内容で授業を実施した。 ○ 文教ナビの活躍もあり、オープンキャンパスのアンケートでは毎回高い評価を得ることが出来た。

5. 目標（今後どうするか）

授業	○ 授業方法については、上記の方法を今後も上手く活用しながら、学生の理解を促すことが出来るよう、また実践力を身につけることが出来るように工夫する。 ○ 授業内容（資料）については、学生の理解が難しい内容も一部あったために、データやイラスト等を活用し、より理解しやすい資料を作成できるよう努める。
授業以外 （学生支援等）	○ 引き続き、面談や相談等において学生との対話を続け、必要な支援を講じることが出来るよう努める。 ○ 学術研究・教材研究についても引き続き取り組んでいく。特に、学習指導要領の改訂が近く行われる予定のため、最新の動向を注視しながらより良い授業・教育を提供できるよう取り組んでいきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	子ども学科としての業務および入試広報課としての業務について、各業務をきちんと把握し、計画的に進めるよう努めた。
広報・募集	OC の運営および大学 SNS の管理・発信を行い、広報・募集活動に取り組んだ。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上